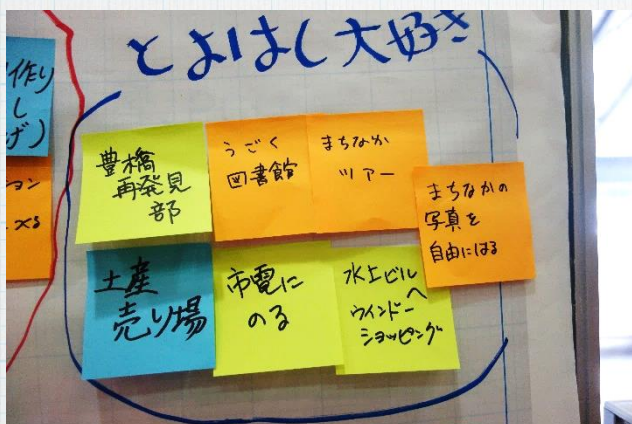


# まちなか図書館ワークショップ

## 第3回開催レポート



### -全3回プログラム-

#### 第1回

まちなか図書館にはどんな本がいい？

～どんな時に、どんな人と、どんな本で、何を？～

日 時 | 令和2年7月19日(日) 午後2時～4時

場 所 | 中央図書館3F 集会室

#### 第2回

「本の倉庫」から「本のある広場」へ

～まちなか図書館をみんなでシェアするために～

日 時 | 令和2年7月26日(日) 午後2時～4時

場 所 | 中央図書館3F 集会室

#### 第3回

「本のある広場」で何を？

～まちなか図書館をみんなの活躍の場にするために～

日 時 | 令和2年8月9日(日) 午後2時～4時

場 所 | 中央図書館3F 集会室

「新しい図書館づくり、そして豊橋のまちづくりに参加しよう」という「まちなか図書館ワークショップ」もついに最終回となりました。

今回は、最後まで盛り上がった第3回ワークショップの概要についてお知らせします。

まちなか図書館への希望や要望にとどまらず、自分ならこんなことができる、こんなふうに使ってみたい、という積極的な意見が相次ぎ、白熱したワークショップになりました。

## 第3回ワークショップの流れ

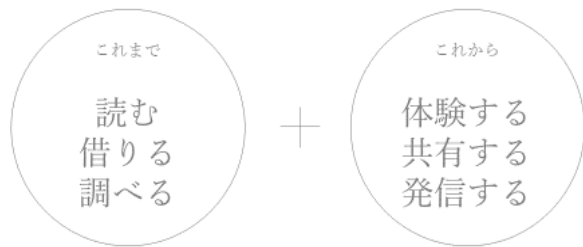
時 刻	内 容
PM2 : 00	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あいさつ</li> <li>○ワークショップの主旨、進め方等の説明</li> <li>○アンケート結果の共有</li> <li>○ファシリテーター紹介 ～フリーライター 谷 亜由子 氏～</li> <li>○まちなか図書館（仮称）の概要説明（活動内容に関して）</li> </ul>
PM2 : 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループワーク テーマ：「本のある広場」でなにをする？ ～まちなか図書館をみんなの活躍の場にするために～ [グループごとに]</li> <li>・グループワークの進行役、発表者、タイムキーパー、もりあげ隊の決定</li> <li>・テーマ①こんなものが図書館にあったら！ ◇図書館の新しい使い方について</li> <li>・テーマ②交流や発信のため、こんな活動をしてみたい！ ◇人のつながりがまちづくりにつながる</li> <li>・グループ案作成（発表のためのまとめ）</li> </ul>
PM3 : 30	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発 表</li> </ul>
PM3 : 50	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ファシリテーターによる講評</li> <li>○図書館長兼まちなか図書館開館準備室長あいさつ</li> </ul>

# グループワーク

テーマ① こんなものが図書館にあったら！

テーマ② 交流や発信のため、こんな活動をしてみたい！

本を読むための場所から  
体験を共有・発信する場所へ



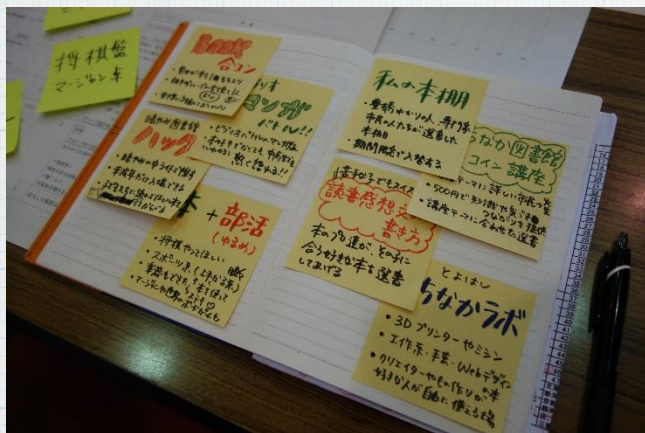
インプットも アウトプットも  
できる図書館

第3回のテーマは、「本のある広場」で何を  
する？ ～まちなか図書館をみんなの活躍の場  
にするために～です。

まちなか図書館は「インプットもアウトプ  
ットもできる図書館」を目指していますので、  
どんな活動をできるようにしていくかは、重  
要なテーマになります。

今回のファシリテーターは第2回に続いてフ  
リーライターの谷亜由子さんです。

参加者とコミュニケーションをとりながら、  
ご自身もワクワクするアイデアを練っていた  
ようです。



参加者の中には「予習してきましたよ！」と  
いう方もおられました。ノートには、まちな  
か図書館でやってみたい活動がぎっしり。柔  
軟で楽しい発想で、ワークショップを盛り立  
てます。

豊橋ケーブルネットワーク[ティーズ]の取材  
が入りました。

このときの様子は8月12日の[ティーズ]HOT  
ステーションで放送されました。



## グループワーク

テーマ① こんなものが図書館にあったら！

テーマ② 交流や発信のため、こんな活動をしてみたい！



みなさん、慣れた様子でアイデアを出し、書きこんでいます。

模造紙には次々と付箋が貼られていきます。意見のジャンルや方向性にしがったグループ分けもスムーズに進みます。



親しくなったメンバー同士なので、話し合いも楽しそうです。

時に意見の違いがあっても、お互いの主張に耳を傾け、尊重しあい、建設的な議論を目指します。



自分の意見を説明し、他の人の意見を聞きながら、ワークショップは進みます。

ユニークなアイデアの提案理由に、ファシリテーターも引き込まれ、議論はさらに深まっています。



ひとりでは思いつかなかった発想に触発され、次々に生み出されるアイデアの連鎖。

模造紙に貼りきれないほどたくさんの、色とりどりの意見が並びました。そして発表です。

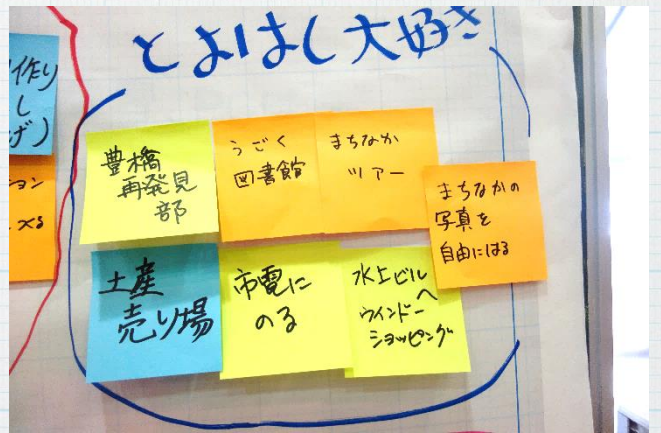
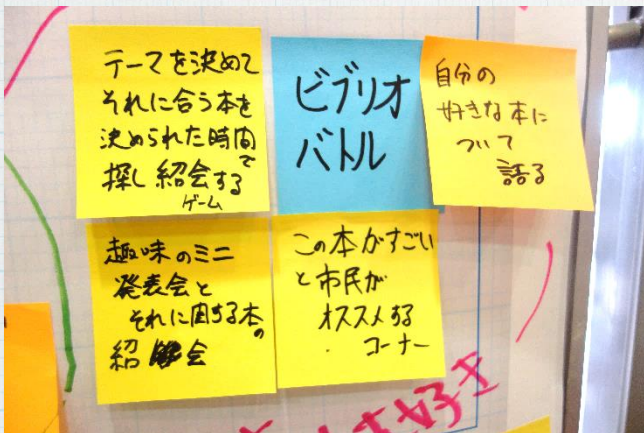
## Aグループ発表

# 多様な人材とつながってまちづくりに関わりあう モノづくりのきっかけをハード、ソフトの両面で支援



「外国語の先生や弁護士、占い師など、いろいろな専門家と出会える場所に」との提案の奥にあるのは「専門家の知識と図書館の本をリンクさせて立体的な情報空間に」という考え方で

す。  
また「高性能のパソコンや各種ソフトで、イラストや音楽、動画などの「モノづくりを始めるキッカケ」を提供していくことが地域からの発信につながる」という意見も出ました。



Aグループの提案は、一見斬新なものも「図書館の本」「図書館の利用」を通じて、まちづくりに関わりあい、まちをアピールしようという目的につながるものです。「なぜこれを図書館でやるのか」ということが深く考えられています。

「図書館に畑を」というユニークなアイデアも「豊橋の農産物を知ってもらおう」「農業に関心をもってもらう」というまちづくりの視点から来ています。

幅広いアイデアに賛同のコメントが寄せられました。

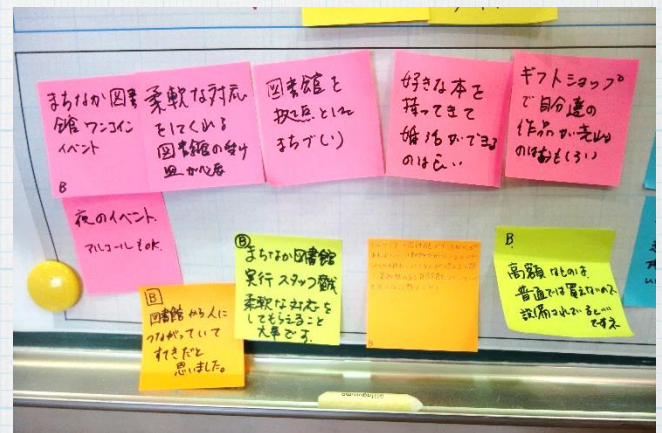
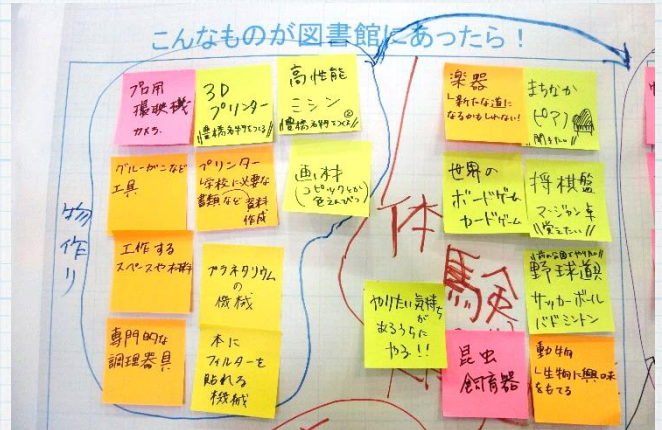
## Bグループ発表

誰もが教えたり、教えられたり 人が情報源になる  
幅広いツールで人とつながり、楽しめる空間に



高性能なミシンやプリンターなど、個人ではなかなか購入しにくい、モノづくりのためのツールがあれば、それを活用する人が集まり「自主的なものづくりグループ活動の支援になるのではないか」というBグループ。

「楽器やボードゲーム、スポーツの用具などがあればみんなで楽しめる」とのアイデアも。



Bグループからは「まちなか図書館実行スタッフ」というアイデアが生まれました。こちらはイベントなどの企画や実施を市民の有志が行おうというものです。「BOOK合コンが実現したら実行委員をやります！」という早速の立候補もありました。

また「たとえば自分なら書店勤務の経験を活かして、子どもたちに感想文の書き方を教えることができる。他にもそういった人が先生になって、知識や技術を必要としている人に教える場にできれば…」という「人が情報源になる」提案や「図書館サポーター」といった提案がありました。

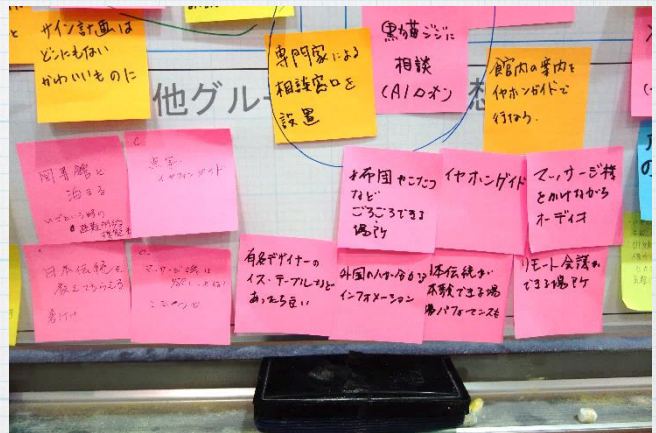
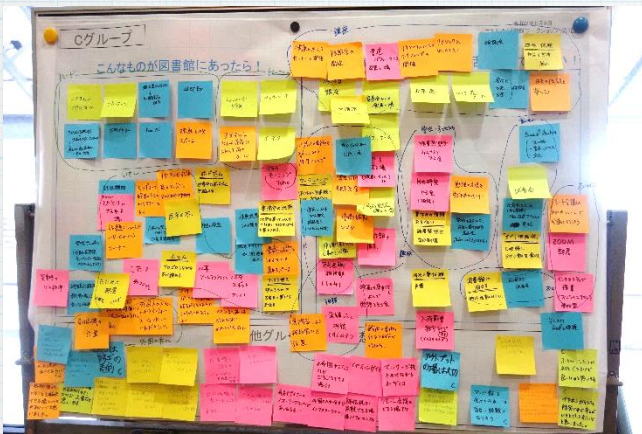
積極的な図書館の活用方法の数々に、賛同のコメントが集まりました。

## Cグループ発表

すべての人が情報にアクセスできるように  
オンライン、双方向な活動の支援も



Cグループは「すべての人が情報にアクセスできるように」と意識しました。誰でも使えるパソコンやWi-Fiなどは情報格差の縮小を意識して。活字を読むことに困難がある人のためのオーディオブックや大活字本など、さまざまな人の図書館利用へのハードルを下げるための提案がありました。



「こたつや畳、ふとんがあったら面白いね」というアイデアから発展して「お茶やお花など伝統的な文化についての講座を実施しては」という提案がありました。そこからさらに、書道の発表会、短歌会などの案には、図書館を自主的な活動の場にしたいという思いが感じられます。

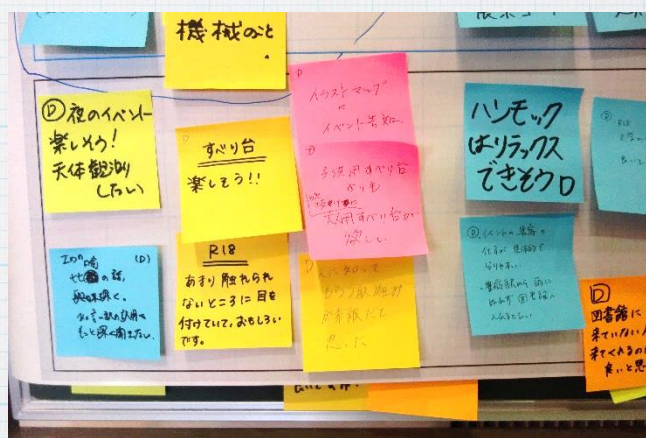
また、図書館に意見を届けるワークショップの継続的な開催希望は、今後の図書館運営に積極的に関わろうという意欲の表れでしょう。

現在の社会情勢にあわせ、リモート会議のための場所の整備や、オンラインによる双方向での講座の企画など、インタラクティブな活動への支援に関する要望もありました。

「興味から趣味へ」世界をひろげる場  
ときには図書館を出てホンモノに触れる機会も



図書館を利用したことのない人に来てもらうことを意識したDグループの提案は「興味を単なる興味で終わらせない場所に」。レーザーカッターや大判プリンターで「モノづくりを始めるキッカケ」や「創作やイベント活動への支援を」というもの。  
またデジタルサイネージやイラストマップで、今まで情報が届いていなかった人にイベントなどをアピールしたら、という意見も出ました。



まちなかのロケーションを活かし、ここにこやプラット、美術博物館と連携して「まちなかエリアをまるごと楽しもう！」という提案がありました。  
テラスでの天体観測や、まちなか広場での落ち葉観察などの自然に親しむイベント、まちなかピアノ、楽器の貸出などは「ホンモノに触れる機会の提供」という共通した展望が感じられます。  
お泊り会やキャンプ、大人向けイベントなど、夜の活動の提案も多くあり、他のグループからの感想にも、その楽しさに期待する声が集まりました。



まちなか図書館で出来ること無限大  
 いろいろなプレイヤーと連携し  
 図書館と豊橋の魅力を高め、さらなる発信を！



全3回のワークショップ、参加者のみなさんの熱気に圧倒されたという、ファシリテーターの谷さんからの講評です。

みなさんから寄せられたたくさんの素晴らしい、ユニークなアイデアは、同じ志の仲間がつながり、さらにまちなかのお店、企業、団体と連携することによって実現が可能になり、図書館の魅力を高めることにつながる、との言葉をいただきました。



豊橋にはすでに素敵な図書館が3つあります。そこに末っ子であるまちなか図書館が加わって、4兄弟が切磋琢磨しながらそれぞれ個性豊かなサービスを提供することで、図書館を舞台とした市民の多彩な活動がひろがり、その結果として「豊橋が自然に魅力的なまちになっていくのでは」とのことでした。また、豊橋の企業が同業他社とのコラボレーションでその魅力を発信しているように、豊橋の図書館も自治体の枠を超え、全国の図書館と連携し、情報発信していくことによって、図書館全体の価値を広くアピールすることになり「豊橋の図書館、豊橋のまちの存在感を高めていくことができるでしょう」という力強いメッセージをいただきました。

最後に図書館長兼まちなか図書館開館準備室長よりあいさつです。

図書館は人と人の交流の場であり、生きた情報を発信したり受信したりできる場です。「みなさん、ぜひ観客からプレイヤーへ、講師へ、とさまざまなポジションへ進み、創造的な活動を楽しんでください」と締めくくりました。

